

アメリカ合衆国における「説明文のための読むことのスタンダード」に関する考察 —「文章の構成の分析」について—

堀江 祐 爾

1. 研究の目的

本論においては、アメリカ合衆国において2010年6月に公表された Common Core State Standards for English Language Arts & Literacy in History/Social Studies, Science, and Technical Subjects (CCSS, 全米共通スタンダード) に示された Common Core State Standards for English Language Arts (CCSS.ELA, 以下「国語科のスタンダード」と呼ぶ) の「説明文のための読むことのスタンダード (Reading Standards for Informational Text)」を取り上げ、「文章の構成の分析」に関する項目について、その構成、ステップの意味などについて分析・考察を行う。

日本の教育に目をやると、2016年8月28日に文部科学省中央教育審議会より「教育課程企画特別部会における論点整理について(報告)」が公表された。次期学習指導要領の指針となる資料である。その中の「国語に関する現状について②」として、国語科における問題点の一つとして、「文の構成を理解したり、表現の工夫を捉えたりすることや、必要な箇所を適切に引用することに課題がある。」ということが指摘された(下線は引用者が添えた。以下同様)。「平成26・27年度全国学力・学習状況調査(小学校)」の分析に基づいた指摘である。^{注1)}

また、平成20年版学習指導要領においては、「C読むこと」の「説明的な文章の解釈に関する指導事項」として次のような指導事項が掲げられている。

〔第1学年及び第2学年〕……イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。

〔第3学年及び第4学年〕……イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。

〔第5学年及び第6学年〕……ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。

説明文指導の「文章の構成の分析」に関する指導事項は、この三つだけである。

こうしたことを受けて、本論においては、「説明文のための読むことのスタンダード」を取り上げ、「文章の構成の分析」に関する項目についての考察を行い、併せて、日本における学習指導要領、「文章の構成の分析」に関する学習指導のあり方について提言を行う。

2. 「全米共通スタンダード」の作成母体と目的

2.1 「全米共通スタンダード」の作成意義

石井英真（2015）は、「全米共通スタンダード」の作成意義について次のように述べている。^{注2）}

近年の米国の教育界のホットトピックである「州共通コアスタンダード（Common Core State Standards）」（以下、コモン・コア）は、まさに21世紀型の学びや高次の学力に焦点を合わせて、目標、カリキュラム、授業、評価、教員養成など、教育システムの総体を一体のものとしてデザインし直すことを企図している。高次の学力を重視するコモン・コアと整合性を持たせるために、少ない内容を深く学ぶことや科学的な検証を経た革新的な教育方法の採用が推奨されるとともに、標準テスト（客観テスト）に代えてパフォーマンス評価を中心に据えたアカウントビリティ・システムの構築がめざされ、学力を実質的に上げるために、教師による教室での評価の意義や形成的評価にも注目が集まっている。しかも、「大学とキャリアへのレディネス（college and career readiness）」という学校教育の包括的なゴール（出口）に向けて、K-16の教育の内容・方法・システムを一貫させようとしている（能力面での教育接続）。

全米共通スタンダードは、「21世紀型の学びや高次の学力に焦点を合わせて、目標、カリキュラム、授業、評価、教員養成など、教育システムの総体を一体のものとしてデザインし直すこと」をめざして作成されたスタンダードである。そして、幼稚園段階から高等学校卒業までを見通したものであるところに、大きな特色がある。

2.2 「全米共通スタンダード」の作成母体

今回の「全米共通スタンダード Common Core State Standards for English Language Arts & Literacy in History/Social Studies, Science, and Technical Subjects (CCSS)」は2010年3月に草案が公表され、パブリックコメントを受けた後、6月に正式発表された。「全米州教育長協議会（Council of Chief State School Officers: CCSSO）」と「全米知事会（National Governors Association Center for Best Practices: NGA）」が母体となってまとめたものである。^{注3）}

なお、2009年には先んじて、「大学進学および就職準備に関するスタンダード（College and Career Readiness Standards: CCRS）」が公示されており、高等学校卒業段階において身につけるべき学力を明示したものととらえることができよう。

1996年に「国語科のためのスタンダード（Standards for the English Language Arts）」が、「国際読書学会（International Reading Association: IRA）」と「全米英語教育者協議会（National Council of Teachers of English: NCTE）」によってまとめられてから、14年ぶりに全国的なレベルのスタンダードが作成されたことになる。1996年のスタンダードは、わずか12項目のものであったため、本格的な「全米

共通スタンダード」が作成されたのは、今回が初めてといってもよいであろう。

2.3 スタンダード作成の目的

全米共通スタンダードに関するインターネット・サイトに掲載されていた Key Points ELA (key point of English Language Arts: 国語科スタンダードのキーポイント) に、次のようなスタンダード作成の目的が示されていた。^{注4)}

Today, we have different standards in every state and we need a common core of state standards to ensure all students, no matter where they live, are prepared for success in college and work.

今日、われわれは各州において異なったスタンダードを用いているが、われわれには、すべての学習者にどこに住んでいようが、大学で学ぶため、社会において働くための準備ができることを保証するための共通スタンダードが必要である。

注目したいのは、「大学で学ぶため、社会において働くための準備」というところである。先に述べたように、全米州教育長協議会と全米知事会とが母体となってスタンダードをまとめたことや、「大学進学および就職準備に関する読むことのスタンダード」が先に公表されたことから、「次世代の経済力を支える人材養成」を目的としたスタンダードであると捉えることができよう。

3. 「国語科のスタンダード」の構成

3.1 6つの領域から構成されている

スタンダードは6つの領域から構成されている。

- 1) 文学のための読むことのスタンダード (Reading Standards for Literature)
- 2) 説明文のための読むことのスタンダード (Reading Standards for Informational Text)
- 3) 読むことの基礎的スキルのスタンダード (Reading Standards: Foundational Skills)
- 4) 書くことのスタンダード (Writing Standards)
- 5) 話すことと聴くことのスタンダード (Speaking and Listening Standards)
- 6) 言語のスタンダード (Language Standards)

「文学のための読むことのスタンダード」と「説明文のための読むことのスタンダード」があることに注目したい。これまでのアメリカの国語教育においては、説明文 (Informational Text) も文学 (Literature) の一形態ととらえることが多かったが、このスタンダードでは明確に区別されている。PISA 調査や全米学力調査 (NAEP) の影響もあろう。^{注6)}

3.2 「読むことのスタンダード」の4つの枠組み

「読むことのスタンダード」の事項は、幼稚園から第12学年（高等学校3年相当）まで、次の4つの枠組みのもとに分類されて示されている。^{注7)}

- A 重要な考えや細部（Key Ideas and Details）
- B 技法や構成（Craft and Structure）
- C 知識と思考の統合（Integration of Knowledge and Ideas）
- D 文章の複雑性の幅とレベル（Range and Level of Text Complexity）

これらは「文学のため」「説明文のため」の両方の「読むことのスタンダード」に共通している。また、「大学進学および就職準備に関する読むことのスタンダード」にもこれらの項目が使われており、幼稚園から社会人までを貫くものとなっている。

3.3 4つの枠組みの10の下位項目

「読むことのスタンダード」は、先に示したA～Dの4つの枠組みのもとに、次の1～10の下位の事項が位置づけられた構成となっている。なお、下位の事項名は論者がまとめたものである。

- A 重要な考えや細部（Key Ideas and Details）
 - 1. 詳細な読みと根拠の引用
 - 2. 中心的な考えと細部の関係
 - 3. 登場人物や出来事などの関係
- B 技法や構成（Craft and Structure）
 - 4. 技法と意味の分析
 - 5. 文章の構成の分析
 - 6. 視点と内容の関係の分析
- C 知識と思考の統合（Integration of Knowledge and Ideas）
 - 7. 形式やメディアとの関係
 - 8. 根拠と理由の妥当性の吟味
 - 9. 比べ読みによる分析
- D 文章の複雑性の幅とレベル（Range and Level of Text Complexity）
 - 10. 文章の選択の適切性

4. スタンダードのステップに関する考察—項目「理由や根拠によって支えられているかの吟味」—

本論においては、「説明文のためのスタンダード（Reading Standards for Informational Text）」の項目B「技法や構成（Craft and Structure）」の5「文章の構成の分析」を取り上げ、幼稚園から大学進学および就職準備段階まで並べ、そのステップの様相について考察する。

4.1 幼稚園から第2学年までの「文章の構成の分析」

【Kindergartners：幼稚園】

5. Identify the front cover, back cover, and title page of a book.

本の表紙、裏表紙、中表紙を判別する。

【Grade 1 students：第1学年】

5. Know and use various text features (e.g., headings, tables of contents, glossaries, electronic menus, icons) to locate key facts or information in a text.

文章中の重要なことがらや情報を見つけるために、さまざまな文章の特色（例えば、見出し、目次、索引、電子メニュー、アイコンなど）について知り、使う。

【Grade 2 student：第2学年】

5. Know and use various text features (e.g., captions, bold print, subheadings, glossaries, indexes, electronic menus, icons) to locate key facts or information in a text efficiently.

文章中の重要なことがらや情報を効果的に見つけるために、さまざまな文章の特色（例えば、キャプション、太字、小見出し、用語一覧、索引、電子メニュー、アイコンなど）について知り、使う。

【考察】

幼稚園段階では、まだ文字が読めないため、「表紙、裏表紙、中表紙」の判別という、書物という情報を与えてくれるものの部位に関する基本的なことがらが重視されている。もちろん、内容については読み聞かせの形で共有する。

第1学年では、「重要なことがらや情報を見つけるため (to locate key facts or information in a text)」に、目次や索引を使うことが求められている。第1学年においてはやや高度な学習活動に思われるかもしれないが、「情報を見つける」ことの基礎ということであろう。

第2学年では、「重要なことがらや情報を効果的に見つける (locate key facts or information in a text efficiently)」と「効果的」というステップアップが図られている。キャプションや小見出しだけでなく、電子メニューやアイコンといったICT機器の活用も含まれているところにも注目したい。

このように、全学年を踏まえながら、少しずつステップを踏み、しだいにレベルを高めていこうというのが、このスタンダードの基本姿勢であることがわかる。

4.2 第3-5学年の「文章の構成の分析」

【Grade 3 students：第3学年】

5. Use text features and search tools (e.g., key words, sidebars, hyperlinks) to locate information relevant to a given topic efficiently.

文章において強調されたものや調べるツール（例えば、キーワード、補注、ハイパーリンク）を用いて、与えられたトピックについての情報がどこにあるかを効果的に見つける。

【Grade 4 students：第4学年】

5. Describe the overall structure (e.g., chronology, comparison, cause/effect, problem/solution) of events, ideas, concepts, or information in a text or part of a

text.

文章や文章のある部分において、出来事や考えや概念や情報がどのように全体的に構成されているか（例えば、時間の順序、比較、因果関係、問題解決）を説明する。

【Grade 5 students：第5学年】

5. Compare and contrast the overall structure (e.g., chronology, comparison, cause/effect, problem/solution) of events, ideas, concepts, or information in two or more texts.

2つまたはそれ以上の文章における出来事や考えや概念や情報がどのように全体的に構成されているか（例えば、時間の順序、比較、因果関係、問題解決）を比較したり、対比したりする。

【考察】

第3学年の項目は、先の幼稚園から第2学年までの「情報検索」に属することからである。「ハイパーリンク」が加えられているところに注目したい。インターネット活用がこの学年から本格的に導入されているということであろう。

第4学年では、「出来事や考えや概念や情報がどのように全体的に構成されているかを説明する (Describe the overall structure of events, ideas, concepts, or information in a text or part of a text.)」という文章構成に進む。「時間の順序、比較、因果関係、問題解決 (chronology, comparison, cause/effect, problem/solution)」などの上位概念が示されているところに留意したい。

第5学年では、「複数の文章 (in two or more texts) の比較 (compare and contrast)」というステップアップが図られている。比べることにより、文章構成の違いを浮き上がらせようというねらいであろう。

4.3 第6-8学年の「文章の構成の分析」

【Grade 6 students：第6学年】

5. Analyze how a particular sentence, paragraph, chapter, or section fits into the overall structure of a text and contributes to the development of the ideas.

特定の文、段落、項、章などが、文章の構成全体にどのように合わせて用いられており、それが考えの展開にどう役立っているかを分析する。

【Grade 7 students：第7学年】

5. Analyze the structure an author uses to organize a text, including how the major sections contribute to the whole and to the development of the ideas.

中心的な部分が文章全体や考えの展開にどのように影響しているかを含む、文章を組み立てるために筆者が用いている構成を分析する。

【Grade 8 students：第8学年】

5. Analyze in detail the structure of a specific paragraph in a text, including the role of particular sentences in developing and refining a key concept.

展開や重要な概念を浮き立たせるための役割を含む、特別な文章の役割や文章中の特別な段落の構成を詳細に分析する。

【考察】

第6学年から第8学年においては、より高度な「文章の構成」に焦点が当てられている。先の第4学年と第5学年においては、「時間の順序、比較、因果関係、問題解決 (chronology, comparison, cause/effect, problem/solution)」という要素に焦点を当てていたが、第6学年では「文章全体の構成 (the overall structure of a text)」を扱う。

第7学年において初めて「筆者 (an author)」が登場する。もちろん、それ以前の学習指導においても「筆者」という概念・用語は使われるであろうが、ここにおいて「筆者」が使われるということは、「筆者」がその文章の内容・題材にふさわしい「文章の構成」を選択しているかどうかという批判的な読みを行うということであろう。

第7学年では「中心的な部分 (major sections)」, そして、第8学年では、「特別な段落 (a specific paragraph)」に焦点を当てている。説明文には「特別な段落」があり、それが意味を持つという、まさに「文章の構成」の意味に関する項目である。

4.4 第9-12学年の「文章の構成の分析」

【Grade 9-10 students：第9-10学年】

5. Analyze in detail how an author's ideas or claims are developed and refined by particular sentences, paragraphs, or larger portions of a text (e.g., a section or chapter) .

筆者の考えや主張がどのように展開され、特定の文章、段落、文章（例えば、節や章）の大きなまとまりによって絞り込まれていくのかを詳細に分析する。

【Grade11・12students：第11・12学年】

5. Analyze and evaluate the effectiveness of the structure an author uses in his or her exposition or argument, including whether the structure makes points clear, convincing, and engaging.

その構成はポイントを明確に示しているか、かみ合っているかなどを含みながら、筆者が説明や主張において用いた構成の効果について分析し評価する。

【考察】

第9学年から第12学年においては事項が2学年ごとに示されている。

第9学年から第10学年においては、「筆者の考えや主張がどのように展開され、特定の文章、段落、文章の大きなまとまりによって絞り込まれていくのか (how an author's ideas or claims are developed and refined by particular sentences, paragraphs, or larger portions of a text)」に焦点が当てられる。「大きなまとまり (larger portions of a text)」がキーである。何段落かがまとまるという構成により、「筆者の考えや主張 (an author's ideas or claims)」が絞り込まれた形で明確になっていくことに着目させるのである。

さらに、第11学年から第12学年においては、「筆者が用いた構成の効果について

分析し評価する (Analyze and evaluate the effectiveness of the structure an author uses)」のように、さらに批判的な読みに焦点が当てられる。

4.5 大学進学および就職準備段階における「文章の構成の分析」

【College and Career Readiness Standards for Reading (大学進学および就職準備に関する読むことのスタンダード)】

5. Analyze the structure of texts, including how specific sentences, paragraphs, and larger portions of the text (e.g., a section or chapter, scene, or stanza) relate to each other and the whole.

文章、段落、さらにより大きなまとまり (例えば、節、章、幕、連など) が、相互関係や全体との関係を示す上でどのように構成されているかなど、テキストの構成を分析する。

【考察】

「大学進学および就職準備段階における読むことのスタンダード」においては、「大きなまとまり」が「相互関係や全体との関係を示す上でどのように構成されているか」という、テキストの構成を分析する一連のステップの最終形態がシンプルに示されている。

5. 「文章の構成の分析」に関する考察

これまでの考察を通して、「説明文のための読むことのスタンダード」の「文章の構成の分析」に示された事項が、幼稚園から社会人までステップを踏んで展開されていることを明らかにした。以下に考察をまとめる。

5.1 全体的なことがらについて

○「筆者が用いている構成を分析する」という意味の「文章の構成の分析」である
筆者が用いている構成を分析する (Analyze the structure an author uses to organize a text) という意味の「文章の構成の分析」である。この「筆者概念」を用いることにより、学習者自身が「筆者 (表現者)」となる可能性がうまれる。

○小学校段階において重要な上位概念が先に示される

「時間の順序、比較、因果関係、問題解決 (chronology, comparison, cause/effect, problem/solution)」などの上位概念が、小学校段階において先に示されるという特徴を持っている。こうした概念こそが基礎的な学習内容と捉えているということであろう。

○第7学年から「筆者概念」が導入される

第7学年以降、筆者概念が明確に示される。それ以前の小学校段階での「文章の構成の分析」は基礎的な学習内容ということができよう。

○12年間の最終到達点が示されている

「大学進学および就職準備に関する読むことのスタンダード」においては、「大きなまとまり」が「相互関係や全体との関係を示す上でどのような構成になっている

か」という、テキストの構成を分析する一連のステップの最終形態がシンプルに示されている。

5.2 学年を追ってのステップについて

○幼稚園から第3学年では「文章中の重要なことがらや情報を見つける」を重視

幼稚園段階から第2学年にかけては、「文章中の重要なことがらや情報を見つける (to locate key facts or information in a text)」ための基本的なことがらが重視されている。

幼稚園段階での、「表紙、裏表紙、中表紙」の判別→第1学年での「目次や索引を使うこと」→第2学年では、キャプションや小見出しに加え、電子メニューやアイコンといったICT機器の活用も含まれたものを活用して、「文章中の重要なことがらや情報を見つける」基礎を身につけさせる。

英語は綴りと発音の関係に例外が多いため、文字の読み書きの指導がゆっくりとなされるため、幼稚園段階から第2学年においては、こうした指導は、話し言葉を中心に学習が展開される。

○第3学年以降上位概念が示される

第3学年以降、「時間の順序、比較、因果関係、問題解決 (chronology, comparison, cause/effect, problem/solution)」などの上位概念が示される。先にも述べたように、小学校段階において先に示されるということは、こうした概念こそが基礎的な学習内容と捉えているということである。

○第7学年において初めて「筆者 (an author)」が登場する

もちろん、それ以前の学習指導においても「筆者」という概念・用語は使われるであろうが、ここにおいて「筆者」が使われるということは、「筆者」がその文章の内容・題材にふさわしい「文章の構成」を選択しているかどうかという批判的な読みを本格的に行うということであろう。

○第11学年から第12学年においてさらに批判的な読みに焦点が当てられる

第11学年から第12学年では、「筆者が用いた構成の効果について分析し評価する (Analyze and evaluate the effectiveness of the structure an author uses)」のように、さらに批判的な読みに焦点が当てられる。つまり、ここに至るのが一連の「文章の構成の分析」の到達点ということである。

6. 日本の国語教育における説明文の指導に関する課題

本論における「説明文のための読むことのスタンダード」に関する分析・考察を通して見てきた、日本の国語教育における説明文の指導に関する「課題」をまとめる。

(1) 12年間以上の国語科カリキュラムの作成を

国際的な視野からみたととき、12年間以上の螺旋的なステップアップを行うカリキュラムの作成が必要であろう。アメリカの「国語科スタンダード」では、幼稚園段階から大学進学および就職準備段階までを扱っているところに注目したい。

(2) 「文章の構成の分析」に関する12年間のステップを示したものが必要

日本の国語教科書においても、「文章の構成の分析」はある程度繰り返し行われてはいる。本論の冒頭部に示したように平成20年版小学校学習指導要領（国語）においても「説明的な文章の解釈に関する指導事項」として三つほどの事項が示されているが、本論に示したアメリカのスタンダードと比べると、圧倒的に項目数が少ない。12年間のステップを示したものが必要ではないだろうか。

(3) 「批判的な読み」の学習指導が必要

「筆者が用いた構成の効果について分析し評価する（Analyze and evaluate the effectiveness of the structure an author uses）」のように、批判的な読みができる自立した読み手を育てることをめざす学習指導に変革する必要がある。

7. 今後の課題

本論においては、「説明文のための読むことのスタンダード」の一部に焦点を当てた。このスタンダードがどのような授業実践を求めているのか、また、どのような学力評価が行われるのか、その事例の収集と考察を今後の大きな課題として挙げることができる。

*

言語、文化、制度いずれも異なった国の事例ではあるが、本論における「国語科のスタンダード」の構成とステップに関する考察が、日本の学習指導要領、国語科教育のあり方を見直す資料のひとつとなることを願っている。

〈注〉

1) 次の文部科学省のサイトに掲載されている。

http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2015/09/24/1361110_2_3_1.pdf (accessed 9/26/2016)

2) 石井英真 (2015) 『現代アメリカにおける学力形成論の展開 [増補版]』東信堂, p. ii

3) 「スタンダード」については、他に次の論にまとめた。

○「アメリカ合衆国における文学のための読むことのスタンダード—Reading Standards for Literature—」（大阪国語教育研究会編、『中西一弘先生傘寿記念論集』, 2012年12月）

○「アメリカ合衆国における『説明文のための読むことのスタンダード』に関する考察—「要旨の読み取りと要約」を中心に—」（大阪国語教育研究会編、『小田迪夫先生傘寿記念研究論集』, 2016年6月）

○「アメリカにおける『国語科のスタンダード』を通して国語科カリキュラムのあり方を考える」（全国大学国語教育学会編、『国語科カリキュラムの再検討』に所収, 2016年6月, 学芸図書）

○「アメリカ合衆国における『説明文のための読むことのスタンダード』に関する考察—理由や根拠によって支えられているかの吟味—」（兵庫教育大学研究

紀要第49巻, 2016年9月)

- 4) <http://www.corestandards.org/about-the-standards> にかつて掲載されていた。
- 5) 1996年の Standards for the English Language Arts (国語科のためのスタンダード) は, 12項目の簡便なものである。これについての考察は, 『国語系教科のカリキュラムの改善に関する研究—歴史的変遷・諸外国の動向—』(2002年, 国立教育政策研究所編) にまとめた。なお, 「国際読書学会 (International Reading Association: IRA)」は, 現在は「国際リテラシー学会 (International Literacy Association: ILA)」と名称が変わっている。
- 6) 全米学力調査 (NAEP) については, 次の論にまとめた。
堀江祐爾「全米学力調査 (NAEP) から読解力の学力調査を考える」(全国大学国語教育学会編『国語学力調査の意義と問題』明治図書, 2010年に所収)
- 7) アメリカにおいては, 小学校の中に「幼稚園クラス (kindergarten class)」が置かれている。

(主な参考文献)

- 石井英真 (2015) 『現代アメリカにおける学力形成論の展開 [増補版]』東信堂
Common Core State Standards for English Language Arts & Literacy in History/
Social Studies, Science, and Technical Subjects (2010) Common Core State
Standards Initiative.
Handbook of Research on Teaching the English Language Arts. (2010) NCTE.
PISA 2009 Assessment Framework (2009) OECD.
The Nation's Reportcard NAEP 2008 Trends in Academic Progress. (2009) U.S.
Department of Education.

(ほりえ ゆうじ・兵庫教育大学)

